

地域における防災活動



令和5年7月5日
東京都 総務局 総合防災部

新たな被害想定（R4.5）の概要

▶ 強い揺れや火災によって、甚大な人的・物的被害が発生

最大死者数：約6.1千人　最大建物被害：約19.4万棟等（都心南部直下地震）

▶ 都民の身の回りに起こりうる被害の様相（定性シナリオ）を提示

ライフラインの途絶や避難所生活の環境悪化、復旧までのプロセスなど、発災後から時間の経過とともに、身の回りに起こりうる事態を災害シナリオとしてわかりやすく提示

▶ 今後の防災・減災対策の推進による被害軽減効果を推計

住宅の耐震化や家具等の転倒・落下防止対策、出火防止・初期消火対策などの対策を進めることによる人的・物的被害の軽減効果等を初めて推計

前回の被害想定から
人的・物的被害は
3～4割程度減少

東京都地域防災計画 震災編を修正(令和5年5月)

新たな被害想定で明らかになった震災リスク等を踏まえ、
東京の総力を挙げて防災対策を進める上での羅針盤として修正

視点1

家庭や地域における
防災・減災対策の推進

視点2

都民の生命と我が国の首都機能
を守る応急体制の強化

視点3

すべての被災者の安全で質の高い
生活環境と早期の日常生活の回復

減災目標の設定

**2030年度までに、
首都直下地震等による人的・物的被害を概ね半減**

今回の修正における主な取組

① 震災リスクへの的確な対応

主な震災リスク

- | | | |
|-------|---------------------|---------|
| 火災の延焼 | ✓ 出火防止対策の強化 | 視点1 |
| 道路の閉塞 | ✓ 緊急輸送道路沿道建築物の耐震化促進 | 視点2 |
| 通信の途絶 | ✓ 全ての避難所における通信環境を確保 | 視点3 |
| 建物の倒壊 | ✓ 住宅の耐震化促進 | 分野横断的視点 |

②地域防災力の再興元年 **視点1**

- ✓普及啓発ツールのグレードアップ
- ✓テレワーカーや外国人、NPO等、
新たな共助の担い手が活躍できる仕組み



防災ブックのリニューアル

防災セミナーの充実強化

社会環境の変化
単身世帯や
高齢者の増加

新たな共助の
担い手の活躍

ボランティア
テレワーカー等

③東京の特性を踏まえた「マンション防災」の展開 **視点1**

- ✓マンションの実態に即した
戦略的な防災対策の推進

助け合いの精神の醸成

マンション防災を戦略的に推進

町会・自治会支援を通じた
コミュニティ活動の促進

災害時でも生活継続
しやすいマンションの普及

あなたのまちに防災専門家がやってくる！

令和5年度

東京防災学習セミナー



S

関東大震災100年出前講座

M1

マンション防災の基本

M2

みんなで進めるマンション防災

A

首都直下地震への一人一人の備え

B

首都直下地震への地域の備え

C

避難所生活のヒント

D

避難所運営の進め方

E

木造住宅密集地域の備え

F

地域で取り組む要配慮者対策

G

近年の災害から学ぶ

H

風水害からの早期避難～東京マイ・タイムラインをつくろう！～

I

防災コンサルティング（町会・自治会、マンション）

申込期間

10月31日まで

ぜひ地域の防災活動へお役立てください！